

先土器・縄文時代

(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

1995年、山科区にある縄文時代からの複合遺跡である中臣遺跡の発掘調査で、先土器時代の遺物が出土しました。出土した石器は、長さ8.5を測るナイフ形石器（写真1左下）で、先土器時代後半の時期にあたります。石材はサヌカイトです。ほかにサヌカイト製のチップ、原石を打ちかいて石器をつくるときに用いるフレーク、チャート製の石核が出土しています。

同じようなナイフ形石器は西京区大枝北福西町大枝遺跡、左京区岩倉ケシ山山頂・中京区西ノ京車坂町朱雀第六小学校、京都文化博物館が調査した右京五条二坊九町などでも発見されています。また、右京区の菖蒲谷遺跡でもナイフ形石器やチャート製の尖頭器が見つかっています。京都市では20数年前までは先土器時代の石器は発見されておらず、この菖蒲谷遺跡



写真1 中臣遺跡出土のナイフ形石器と石核・剥片

での尖頭器の発見により、京都の歴史が先土器時代まで遡ることが明らかになったのです。

縄文時代は草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区分されます。京都市内でも中京区西ノ京南上合町で発見された大川式と呼ばれる早期の押型文土器を最古に、ほぼ全時期にわたって出土し

ています。現在までのところ草創期の土器の発見はありませんが、草創期に使われた土器である有茎尖頭器は朱雀第七小学校など市内各所で出土しています。

縄文時代の京都といえば、北白川にある遺跡群が有名です。北白川下層式・上層式、一乗寺K式など、北白川とその周辺遺跡の出土

略年表

紀元前10,000年頃	前7,000年頃	前4,500年頃	前3,000年頃	前2,000年頃	前1,000年頃	前300年頃
先土器時代	縄文草創期	縄文早期	縄文前期	縄文中期	縄文後期	縄文晚期
大枝遺跡 中京遺跡 ケン山遺跡 朱雀第六小学校内	菖蒲谷遺跡 朱雀第七小学校内	西ノ京南上合町 上終町遺跡	小倉町別当町遺跡	嵯峨院路下層 嵯峨院路下層	日野谷寺町遺跡 北白川遺跡 分町遺跡	大宅遺跡 中臣遺跡
1:2:1/4 3:6:1/8 7:1/12	2	3	4	5	6	7

資料が近畿地方の土器型式の標準として定着しています。

修学院から岡崎にかけて点在する縄文時代の遺跡は背後に比叡山の山並みがせまり、白川の流れがつくりだした扇状地に立地しています。縄文時代の人々は狩猟や採集により生計を立てていましたので、緑豊かな比叡山南西麓の森や、大小の川が遺跡の立地に適していたのでしょうか。

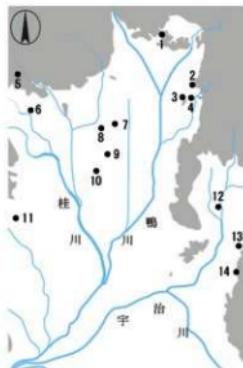
北白川の上終町遺跡では縄文時代早期の押型文土器とともに、豊富な竪穴住居跡（写真3）が発見されています。住居跡は長径2.8m、短径2.4mの梢円形です。型取りした原寸模型は、京都市考古資料館に展示しています。

京都大学の周辺は北白川小倉町・別当町・追分町などの縄文時代の遺跡が集中しています。竪穴住居跡や配石遺構など多くの遺構と、耳飾りや様々な石器・土器・土製品などの出土遺物が発見されています。これらの出土遺物は京都大学文学部博物館に展示されています。また、1974年に北白川追

分町調査（京都大学北部構内）遺跡の調査で発見した縄文時代後期初頭の配石遺構と埋甕が、京都大学理学部植物園内に移築保存（写真4）されています。

北白川の扇状地に多くの縄文時代の遺跡が立地するように、山科盆地にも縄文時代の人々の足跡が記されています。中期後半から連縄と続く中臣遺跡、後期から晩期にかけての遺構を検出している大宅遺跡、中期後半から後期初頭に栄えた集落跡である日野谷寺町遺跡などです。日野谷寺町遺跡では、石囲炉（写真2）や貯藏穴などが発見されています。

このように京都市内の縄文時代の遺跡は、北白川の扇状地と山科盆地に集中して発見されてきました。近年、右京区の嵯峨院跡での立会調査や、天童寺隣接地での発掘調査において、わずかですが中期や晩期の土器が出土しています。縄文時代の遺跡の立地に適している嵯峨野・嵐山の地域でも近い将来、縄文時代の遺構が発見されることでしょう。（菅田 薫）



遺跡位置図 1 ケシ山遺跡 2 上終町遺跡
3 北白川追分町縄文遺跡 4 小倉町別当町遺跡 5 畦藤谷遺跡 6 嵯峨院跡下層
7 朱雀第六小学校内 8 西ノ京南上合町
9 朱雀第七小学校内 10 右京五条二坊九町
11 大枝遺跡 12 中臣遺跡 13 大宅遺跡
14 日野谷寺町遺跡



写真2 日野谷寺町の石囲炉



写真3 上終町遺跡の竪穴住居跡



写真4 京都大学理学部植物園内に移築復元された遺跡